

平成26年度第12回「墨田区子ども・子育て会議」・
「乳幼児ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成27年1月6日（火）午後6時35分～9時
会場：すみだリバーサイドホール（イベントホール）

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 乳幼児ワーキンググループ専門委員会提言について	資料1
(2) 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画の素案について	資料2
(3) その他	

3 次回の予定

日 時：平成27年 月 日（火）午後6時30分～8時30分

会 場：

主な議題：墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画について

4 閉会

配布資料

資料1

墨田区乳幼児ワーキンググループ専門委員会 提言

資料2

墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画【素案】

出席者(敬称略)

委員

長田 朋久（横川さくら保育園長）

高嶋 景子（田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科准教授）

西島 由美（にしじま小児科院長）

賀川 祐二（NPO法人 病児保育を作る会代表理事）

財津 亜紀子（文花子育てひろば施設長）

佐藤 まり子（ムーミン保育室施設長）

佐藤 摩耶子（公募）

莊司 美幸（公募）
青塚 史子（太平保育園長）
貞松 成（株式会社 global bridge 代表取締役）

< 欠席委員 >

杉浦 浄澄（江東学園幼稚園副園長）
本多 美絵子（両国幼稚園副園長）
徳野 奈穂子（公募）
多胡 晴子（公募）
荒木 尚子（緑幼稚園長）

< 傍聴 >

なし

課長出席者

関口 芳正（子ども・子育て支援担当部長） 小倉 孝弘（子育て支援課長） 鈴木 一郎（子ども課長） 村田 里美（子育て支援総合センター館長）

事務局出席者（検討チーム含む）

浦辺・井場・遠藤・松本・長山・坂田・高橋・三浦・水野・梅原・田村・酒井

事務局（株）地域総合計画研究所

佐々木

1 開会

委員	これより、乳幼児ワーキンググループ（以下、WG）を始める。
----	-------------------------------

2 議題

(1) 乳幼児ワーキンググループ専門委員会提言について

(2) 墨田区子ども・子育て支援事業計画 墨田区次世代育成支援行動計画〔素案〕について

事務局	（資料 1、資料 2 について説明）
-----	--------------------

(a) 子育てひろばについて

委員	子育てひろばに係るネットワークの強化とは、具体的にどのようなイメージか。
事務局	保育園や児童館でもひろば事業が行われているが、単独で行われているそれらの事業をネットワーク化していくことを考えている。
委員	画一的にするのではなく、自由度を高くし、気軽に立ち寄れる方がよい。主導的にネットワーク化などの手を加えると、せっかくの機能が失われるのではないか。自然にネットワークができるのが良いと考える。
事務局	実際には、在宅で育児をしている親と子どもの居場所をつくるため、保育園等で園庭開放やホール開放等を行い、気軽に来てもらえる時間帯を設けており、児童館でも集える場を提供して、ひろば事業を行っている。 ひろば事業のネットワークとしては、各施設で行われている事業を単体で行うのではなく、それぞれの施設の担当者同士がネットワークを構築し、横のつながりを持って総合的な事業展開を考えている。ネットワークの作り方は今後のことであるが、親同士のネットワークというよりは、運営者側のネットワークを想定している。 現在も、ひろばネットワークというものがあり、児童館の代表者などが集まり、事例検討などを行って相談対応の能力向上を目指している。また、イベント等の情報交換も行っている。
委員	子育て支援拠点事業について、今後、児童館の全 13 館も子育て支援拠点事業として拠点化していくという意味合いが、この「子育てひろば」の事業の中に入っているのか。
事務局	そうした意味合いは入っているが、13 館の中にはコミュニティ会館も含まれており、そこを今後どうしていくかは検討を要する。
委員	では、「つどいの広場・子育て広場」の事業において、コミュニティ会館も子育て支援拠点事業のような機能の一部を持つということではどうか。
事務局	機能の一部を持つことになるが、コミュニティ会館を子育て支援拠点事業に位置付けるかどうかは別のこととなる。
委員	コミュニティ会館を除く児童館は、「子育てひろば」事業として子育て支援拠点事業の機能を持ち、コミュニティ会館は「つどいの広場・子育て広場」事業として子育て支援拠点事業の一部の機能を持つということではどうか。
事務局	そうである。

(b) 子どもが主体の協同的な学びプロジェクトについて

委員	こうした取り組みは、現在、どの園でも行っている。その中で、「まずはモデル園において実践し」としているが、これだと初めて行う取り組みのようなイメージがある。現在も各園で行っているのであれば、「発表園」といった表現でも良いのではないか。
事務局	現在行っていることを進化させていくのが、この事業の趣旨である。各園で実践しているだろうが、それらを具体的なカリキュラムとして組んでプロジェクトを進め、発表を行って成果を可視化し、多くの園で学びを共有化して全体の質を高めていく趣旨である。また、発表だけに留まらず、そこに大学研究グループが関わってプロジェクトを進めるとしている。ただし、全園でできるわけではないため、公立私立の幼稚園と保育園から1園ずつモデルとして指定することを想定しているが、「モデル園」とする表現が良いのかどうかは次回の親会議までに検討し、誤解がないような表現にしていきたい。 なお、資料1については、次回の親会議にて、最新版を配布したい。
委員	計画素案では、「まずは」の文言は使用されていないため、「モデル園」の検討となる。
委員	園がモデルではなく、事業がモデルなため、「モデル園」ではなく「モデル事業」ではないか。要は、新しいプロジェクトを行いたいということではないのか。
事務局	基本的に各園で既に実施されていることではあるが、それらがシステム化されておらず、システム化していくことを考えている。
委員	大学の研究者が関わって更なるものを求めるプロジェクトであろうが、「モデル園」とするとその園が理想的なモデルとなり、入園希望者が多くなる。そのため、全園での実施は難しく、どこかの園を選んで、新たな保育の取り組みを行っていくとした書き方にすればよいのではないか。
事務局	表現は工夫したい。
委員	保育の質を「さらに」向上させるためといった形だとイメージが違うのではないか。
委員	「学ぶ」「学び」が多くあるが、その前に「生きる」ことを覚えてほしい。一人で生きていける子どもを育成する視点を入れてもらいたい。幼稚園児にも一人で生きることが苦手な子がおり、一人で生きることを教えられない親もいる。
委員	「学ぶ」よりは「育つ」という視点も考えられる。
事務局	意見は会長に伝えて、調整したい。なお、ここは教育的な要素が入っていることもご理解いただきたい。

(c) 出産準備クラス・パパのための出産準備クラスについて

委員	受講者同士のつながりを促し、出産後も継続したかわりを保てるよう支援とあるが、具体的にどのようなことを想定しているのか。
事務局	現在は保健センターで行っている事業であるが、申込者が多く抽選で漏れる場合もあるし、受講してもその場で終わる場合がある。妊娠から出産、育児まで切れ目なく続く支援を行っていくことが大事であるため、保健センターだけではなく、子育て支援総合センターや保育園等の事業につなげていきたい。
委員	講座でのつながりからすれば、メーリングリスト等でのつながりではなく、異なる講座の開講を行っていくということか。
事務局	実際にメーリングリストを作成している講座もあり、そうしたことで横のつながりを持つ

	ことも行っていきたいし、次の講座の案内でつないでいくことを考えている。
委員	そのつながりは誰が管理するのか。メーリングリストは誰が管理してまとめていくのか。
事務局	役所になるだろう。
委員	メーリングリストの管理は大事であるが、あまり区で主導せずにつながりを支援していくことを考える必要がある。また、抽選で漏れた人が受けられない部分が問題である。全員受けられるようにしてほしい。
事務局	セキュリティ管理もあるため、ある程度、行政が関与しないといけないだろう。また、講座は実施会場の広さにより、受講者数が限られてしまう。
委員	そのキャパシティを広げることが先決ではないか。
事務局	行政評価において外部評価委員からも指摘があったことでもある。
委員	中学生の時からふれあいもひとつの方法だろう。乳児を抱けない親もいる。また、異世代交流も大切であろう。
事務局	中学生が保育園への職場体験を行っており、そういうことを広めていけばよいと考えられる。 今までの意見において、例えば、児童館で高校生や中学生が小学生などの子どもの相手をするボランティアを増やすことや乳幼児事業への参加など、計画に書き込めるのであれば書いてもよいと考えている。
委員	ボランティアにすべて任せるのではなく、大人の管理が必要だが、小さな子どもと遊ぶ機会は中高生に良いことだろう。
事務局	そうした議論は学齢 WG 専門委員会でもされており、さらに、高齢者等との異世代交流も必要とされているが、もう一度、事業を見直す中で追記や修正などをしていきたい。
委員	出産準備クラスは1回につき約10人となっているが、もう少し受講者を増やすように改善できないか。
委員	量的な拡充は大事である。保健センターだけではなく、他の機関での実施も考えられないだろうか。
事務局	保健センターにも働きかけたい。また、表現も検討したい。

(d) 子育て支援ネットワークの構築について

委員	人材育成とはどのようなイメージか。
事務局	現計画において、地域での相談を受ける人材育成などがいくつかあった。これからは、ネットワーク化の中で人材育成が必要となってくるため、各機関の職員がしっかりと相談を受けられるよう、ネットワークの中に人材育成を含めるとしてまとめたものである。
委員	ネットワーク化により機能強化することだろうが、この中に人材育成があるのはどうかと感じられる。もし人材育成を入れるのであれば、人材育成プログラムとして別にあった方がよいのではないかと。ネットワーク化することで人材育成ができるのか。
事務局	機能を強化するための人材育成でもある。研修を取り入れることも考えている。
委員	同じ一文で表記するよりは、行を変えて別に表記した方がよいのではないかと。
委員	提言書と計画素案で担当が異なっているが、どうなのか。
事務局	提言書の方に誤りがあり、計画素案の方が正しい。

委員	子育て支援ネットワークの構築において、保育園と児童館が2回出てくるが、ここは幼稚園や学校、町会だけでよいのではないか。検討してほしい。
委員	人材育成について、ネットワーク構築による話し合いなどにより、結果的に人材育成となることをイメージしているのではないか。
事務局	それも1つの側面である。また、相談に対応できて必要な機関につなげていける職員としての育成もある。 ここは、別書きの形としたい。

(e) 地域子ども・子育て支援事業について

委員	子どもまたはその保護者の身近な場所とは、どこになるのか。
事務局	教育・保育施設や児童館、区役所、子育て支援総合センターを意味している。 また、他にも部分的に表現を修正したい。

(f) 評価指標について

委員	楽しいと感じる中高生と高校生等について、65%でよいか。(特に意見なし) では、ここの指標は65%とする。 また、ファミサポ会員が減少した理由は何か。
事務局	従来まで会員は400人以上いたが、会員登録したままで実際に活動していない方もいたため、精査した結果、減少した。現在、そこから増やしているため、300人くらいはいけるのではないか。また、Hugでのサポーター会員を入れて、数値を上げてよいか。
委員	すべて合わせても350人くらいではないか。ただ、重複している人もいるだろう。
委員	では、300人とするか。(特に意見なし) 次に、地域子育て支援拠点事業の利用度について、33%の案があるが、いかがか。
委員	これから在宅子育ての親子が孤立しないように周知等を行っていきたい。そのため、33%くらいの利用度には達したいと考えている。
委員	では、33%でよいか。(特に意見なし)

(g) 子ども・子育て支援事業計画について

委員	教育・保育の量の見込みと確保策をまとめた表は、これまで検討してきた表と軸が異なっているために見にくい。国がこのような表を使用しているのか。
事務局	特段、国の指定はないが、確認したい。
委員	9日の企画会で計画素案を検討した後に、14日の親会議にかけたいため、意見等があれば8日までお願いしたい。

(3) その他

委員	4点ほど意見があり、検討いただきたい。 1点目は、妊娠期・出産・子育て期間における切れ目ない支援で、妊娠2~3ヶ月などの時期から家事支援や母親への寄り添いの支援を始めることのほか、出産後のサービスや現
----	---

	<p>物支援、産後うつ予防などの精神的なケアを強化することが重要なため、そうした点を計画に記載できないか。</p> <p>2点目は、子育て支援員制度との関係において、全員が全体の教育に貢献し、育成していく体制をとれることが重要である。より優良な事業者に墨田区で保育所やこども園等を開業してもらうために、保育士の育成・確保が区内できていると他区への優位性を持つため、区全体として取り組めないか。</p> <p>3点目は、難病などの特別なケースの子どもを抱えた親に対する支援で、墨田区でも実施のための準備と早期の制度整備が必要ではないか。</p> <p>4点目は、ワーク・ライフ・バランスにおいて、個々人の生産性を高めていくことは重要なことであり、産業政策と男女共同参画の政策と併せて事業を検討する必要がある。また、子どもたちの能力を伸ばすため、例えば、所得が低い家庭などの児童への教育支援について、福祉的な施策を行う必要があるのではないか。</p>
事務局	<p>1点目について、産後うつ予防は、妊娠から出産、子育て期間における切れ目ない支援の中のひとつであり、何かしらの施策は検討したい。また、計画に書き込めるものは書き込みたい。</p> <p>2点目について、多様な層の研修による支援員は必要と考えており、Hugで国の制度を活用しながらそうした研修が実施可能であれば、5年間の中でやっていきたいと思う。この部分も、計画に書き込めるなら書き込んでいきたい。</p>
委員	<p>今回の子育て支援員は、全国的に統一された研修制度と資格制度で、墨田区レベルで上乗せしても区内でしか使えず、効果がない危険性があるのではないか。そのため、都レベルを視野に入れていった方が無難ではないか。</p>
委員	<p>Hugでは今回の子育て支援員とは若干異なる内容の研修を行っているが、国の子育て支援員の制度に乗りつつ、学童クラブ職員の養成や子育て支援拠点の職員の養成をまとめて行うことを予定している。早い段階で区全体として、各コースの資格・養成に取り組む段階に入った方がよいのではないか。例えば、予定されている4つのコース以外でも、区で障害児への対応を考えて、独自に載せていくことは可能ではないか。</p>
委員	<p>これについて、国の方でもっとはっきりしてから検討した方がよいのではないか。</p>
委員	<p>資格を取得した上で数年の研修を受けるならよいが、研修のみで資格を取れるものは危険ではないかと思う。上に立つ人が見守らないといけなだろう。</p>
委員	<p>Hugで行っている研修で、国のカリキュラム以外の部分を補完する研修はあるのか。</p>
委員	<p>項目としてはそれほどない。ただし、長い時間の研修などを行っている。</p>
委員	<p>安易に広げていくことに危うさはあるが、方向性として質的な向上は図られるのではないか。国のカリキュラムに乗った上で、質的な部分を保証する研修があれば、人材の育成につながるのではないか。</p>
委員	<p>こうした研修や取り組みにより、全体的な底上げになるのではないか。</p> <p>また、年1回の研修から年2回の研修に増やすことを検討している。</p>
委員	<p>時期尚早な感じもするが、中間年の見直し時に入れることも考えられる。</p>
事務局	<p>来年度の子ども・子育て会議の提言の中に入れることも考えられる。また、大まかな形で計画に入れることも考えられる。</p>
委員	<p>Hugが個別で実施していくよりは、区全体で取り組み、活躍する場を広げたいと考えて</p>

	おり、そうした意味合いが少しでも書かれていればと思う。
委員	これは国が制度として示すため、計画への記述の有無に関わらず、実施することになる。
事務局	子育てサポーターの育成・活用の事業があるが、子育て支援サービス事業で包括的に捉えられないか。
委員	子育てサポーターに限定しているため、そうするならば、子育てサポーターそのものを見直さなければならないだろう。
事務局	子育て支援員という言葉を使う必要はないため、子育てサポーターという表現ではなくとも、その使用する言葉に子育て支援員を読み込める表現としたらいかがか。
委員	では、子育てサポーター等という表現でいかがか。14日までに検討いただきたい。
事務局	3点目について、訪問型保育として、行える事業者がいれば行わなければいけない事業のため、実施していきたい。これも間に合うようであれば、計画に書き込みたい。また、保育料設定でも適用できるようにしたいと考えている。 4点目について、個人に対して生産性を上げる取り組みは難しいが、事業者等に対する取り組みは行いたい。なお、計画素案においても前回のミニシンポを受けて追記している。また、低所得層の子どもへの支援を行うことは決まっているが、計画に入っていないため、担当部局と調整したい。

3 次回の予定

事務局	次回の乳幼児 WG は未定だが、親会議は1月14日(水)の18時30分から、区役所13階の131会議室で行う。
委員	本日はこれで閉会とする。

以上